



目次：

-
- 「卒業生の実践報告会」から 1
- 自分の引き出しを増やす 2
夢を実現させるためにも、これからもっとたくさんのことを学び、自分の引き出しを一つ一つ増やしていく。
- 見守る大切さを知る 2
先生方はどんな時でも子どもの目を見て、笑顔で関わっておられる。
- 絶対役立つ!!100%の確信 3
子どもたちが成長できる環境をつくるshadow workが大切なのだと気づく。
- 見えてきた教師に必要な力 3
生徒に対し臨機応変に受け答えする対応力が教師にとって必要なことがわかる。
- 語学研修で得たもの 4
英語でコミュニケーションが取れるようになったことは本当に嬉しい。
- 採用試験受験対策講座 4
- 2011年度「運動会」 4



当該記事につきましては、都合によりホームページ上への掲載を控えさせていただきます。

「卒業生の実践報告会～先輩からのアドバイス～」から

教職支援センター 教職アドバイザー 西寺 正

「教壇の立ち姿が頼もしい！」「話す内容に力がある！」
上記の実践報告会での本学出身の二人の先生の話の感想だ。
笑顔が素敵な平岡佳奈先輩（久世西小）は、8年目の先生。担任の2年の児童をわが子のように日々、笑顔で迎えるための実践内容が実に計画的・継続的だが、優しい配慮の裏づけがある。
若さが凛々しい岡本寛寿先輩（打出中・国語科）は、講師を経て卒業2年目で、現職を獲得したが在学中の教育実習やアルバイトに至るまで教職に就く「意識や自覚」がすこぶる高かった。
教員希望者は今後もこれらの機会を見逃さず参加してほしい。





小学校教育実習
を終えて

■ 自分の引き出しを増やす

歴史学科 第4学年 田中 結衣（たなか ゆい）

私は9月の1ヶ月間、小学校の教育実習に行かせていただきました。実習に向けては、三つの目標をもって臨みました。一つ目は、できるだけたくさんの時間子どもたちと関わることで。二つ目は、現場でしか学べないことをたくさん吸収すること。三つ目は、いつも笑顔で心掛けることです。実習を終えた今は、先生方と子どもたちのあたたかさ感謝の気持ちでいっぱいです。

担当は5年生でしたが、努めて全ての学年、クラスに入って授業を参観したり、子どもたちと一緒に給食を食べたりしました。参観等を通して、やはり学年やクラスが違えば、指導の仕方や子どもとの接し方ももちろん違い、それに対応してそれぞれの先生方が普段からさまざまな工夫をしておられるということがよく分かりました。

教育実習のなかで特に学ぶことが多かったのは、研究授業です。個を重視しながら集団も大切にすること。教える側として、自分が

何を一番大切にして授業を行うのかということ。また、主役である子どもたちの様々な発想や考え方、感じ方を引き出すこと。こういったことを考えながら授業づくりをしていくことの大切さ、そして難しさを実感しました。

子どもたちと過ごす毎日はとても刺激があり、新しい気付きや発見の連続でした。実際に教師になれば、もちろん楽しいだけではなく想像以上につらく、大変だと思います。しかし、小学校の教師になりたいという気持ちは実習前よりも一層強くなりました。この夢を実現させるためにも、これからもっとたくさんのことを学び、自分の引き出しを一つ一つ増やしていきたいと思っています。

おめでとう！！
大阪市小学校
現役合格



幼稚園実習
を終えて

■ 見守ることの大切さを知る

教育・心理学科 第3学年 中村 健介（なかむら けんすけ）

私は、9月5日から16日の2週間、幼稚園実習に行かせていただきました。その中で学校の授業とはまた違った視点で学ぶことが出来ました。実習初日は子どもたちと仲良くなれるのだろうかと不安な気持ちでいっぱいでした。子どもたちも初めて見る私の姿に、誰だろう？と恥ずかしがっている様子でした。その時お互いに距離があり、私は「これでは駄目だ。もっと関わっていこう。」と思い積極的に自ら話しかけ、コミュニケーションを図りました。そして、遊びを通してコミュニケーションをとるうちに「中村先生あそばー」というその一言で、不安が一気に飛んでいきました。

毎日関わる中で、「見守る」「支援する」と言う事の難しさを感じました。初めの頃は、何でも手伝うことが支援だと思っていました。しかし「出来る事まで手伝うと、子どもが甘え、自分でやらなくなるよ」と先生から言われ、改めて保育(教育)の難しさを感じると同時に、一人ひとりによって「支援する際のライン引き」を考えなければならぬと知りました。

この事について、実習中は特に悩みました。

実習中は子どもたちとの関わりはもちろんの事、先生の言葉かけや視線、表情を観察することにも気をつけました。その中で特に印象的だったことは、先生方はどんな時でも子どもの目を見て、笑顔で関わっておられるということ。その繰り返しの中で、子どもに安心感を与え、信頼関係を築いていくのだと感じました。

実習では悩む事や上手く対応できないことが毎日のようにありましたが、それ以上に「楽しんで学ぶことが出来た」と自分自身で思っています。実習で学んだこと、感じたことを忘れず心に刻み込み、今後の教育活動に活かしたいと思っています。



絶対に役立つ!! 100%の確信

教育・心理学科 第3学年 川井 柚香（かわい ゆか）

私は、今年の4月から週に10時間、京都市の小学校に総合育成支援員として勤務しています。以前まで取り組んでいた学生ボランティアとの違いに、初めは戸惑いました。各教室を回りながら学習の支援をするには、まず、その子自身の理解を深めなければならないと考えています。その為に、子どもたちより早く学校に行き、校門に立ってあいさつをしたり、休み時間に一緒に遊んだり、話をしたりすることを心がけています。そして、その子の趣味や特技、どんな性格で何に興味があるのか、また、集団の中での位置づけや成長段階などの理解を深めています。

このようにして築いている信頼関係を活かしながら、「なぜ分らないのか」だけではなく、「どのようにしたら分かるのか」を考えて支援できるように努めています。

例えば、計算が苦手な子には、定規の目盛りを用いて足したり引いたりするように促したり、絵や図を使って説明したりしています。聞き取ることが困難な子には、担

任の先生が話したことを、ゆっくりと伝え直すようにしています。このように、集団の中では、授業についていくのが困難な子を個別に支援し、分かりやすく伝えられるように心がけています。

また、子どもたちの中には、学習支援だけでなく、生活適応力が低かったり、人間関係を築く能力やコミュニケーション能力に課題がある子どももいます。どうしても対象となる子どもとばかり関わってしまい、私に“何とかしてもらえ”という依存心を子どもに与えがちです。大人が手出し、口出しすることは簡単ですが、それだけでは子どもの成長を促すことは出来ません。教育活動の中で私は、子どもたちが成長できる環境をつくるshadow workが大切なのだと気づきました。

先生方に助けていただきながら、日々子どもたちから学ばせてもらっています。支援員としての勤務経験は、実際に小学校の先生になり、自分のクラスを持ったとき、絶対に役立つと100%確信しています。



総合育成支援員
(京都市)

見えてきた教師に必要な力

真宗学科 第3学年 大田 正真（おおた まさなお）

私は、自分の出身校である、津市立北大路中学校にスクールサポーターとして、週二回行っています。北大路中学校では、主に障がいのある子どものクラスの授業補助を行っています。

このボランティアを通して、三つの事を学びました。一つは、生徒とのコミュニケーションの大切さです。私は人とコミュニケーションをとる時はいつも受け身になりがちですが、学校現場では教師自らが生徒にコミュニケーションを取りに行かなければ、生徒は教師に対し心を開きません。そこで私は休み時間などを利用して生徒に積極的に話しかけコミュニケーションをとる努力をしました。

二つは、生徒は予想のつかない行動を取ったり、何かをして欲しいと求めて来る時があります。私は、学生なのですが、生徒からすれば一人の教師として見られています。だから、起こった事を先生に任せるのではなく、瞬時に判断し自分が対応しなければいけない事もありました。生徒に対し臨機応変に受け

答えする対応力が教師にとって必要なことだとわかりました。

三つは、クラスの生徒たちは、勉強に対して驚く程、真剣な姿勢で臨んでいます。私は、そのような光景を見て学ぶという事の素晴らしさ、ありがたさを改めて考えさせられました。ある授業ではほとんどが発問形式で行われています。先生方は専門分野はもちろんの事それ以外に幅広い知識を活用し、そこから答えに繋がる発問をされていたのです。教師には、専門分野だけではなく幅広い知識を自分に身に付ける必要がありそれを活用する活用力が必要であると学びました。

私はこのボランティアを通して教師になりたいという気持ちが一層強くなりました。しかし、気持ちだけでは教師にはなれません。これからは今以上に勉学に励み、幅広い知識を身につけたいと考えています。



スクールサポーター
(大津市)

■ 語学研修で得たもの ①

国際文化学科 第3学年 黒川 真衣（くろかわ まい）



今年の8月7日から27日まで、イギリスのカンタベリーでの短期語学研修に参加しました。大学の授業で様々な国の文化について学ぶ中、自分の足で外国の地を踏み、その文化や言語に触れたいと考えたからです。また、中学の英語科教員免

許を取得したいとも思っており、自らの英語力向上もその目的のひとつでした。

私が参加した語学研修プログラムでは日本人が多かったのですが、他国からの参加者やホストマザーとの交流、他のホスト先と一緒に夕食を作るなどイギリスでの生活文化を体で感じることができました。

また、他国からの参加者たちは積極的で、授業中に発言する機会も多く、彼らに負けないように頑張ろうと思ううちに自分の発言の機会も増えるようになりました。

たった3週間の研修で英語がペラペラと話せるようになったわけではありません。しかし、帰国してからオーラル・コミュニケーションの授業やGLOBAL SQUAREで留学生アシスタントの方と話す中で、今までよりも英語で会話ができるようになったと感じるとともに、コミュニケーションが取れるようになったということを本当に嬉しく思いました。

この研修での様々な経験から、今までよりも自分に自信を持てるようになりました。これからも英語の勉強を続けていきたいと思っています。



採用試験受験対策講座

教員採用選考試験の筆記試験対策としてポイントを押さえた講座です。講習費の負担額がこれまでの約1/3になりました。第1学年から第3学年まで、教職を目指す学生は奮って受講してください。

1 教職教養対策講座

- ・日程 2月8日(水)－2月10日(金)
- ・会場 京都ノートルダム女子大学

2 一般教養(理数)対策講座

- ・日程 3月21日(水)－3月23日(金)
- ・会場 大谷大学

★ ガイダンス (無料)

- ・12月10日(土) 13:10-14:40
於 大谷大学 5105教室
- ・12月19日(月) 16:40-18:10
於 京都ノートルダム女子大学 R208教室

★ 申込期間

11月15日－1月16日

★ 詳しくは

教職支援センターまで



2011年度 教育・心理学科運動会 (10月22日)



みごと
優勝

黄組



健闘した
2位

赤組



惜しくも
3位

青組



本番前の打ち合わせ



閉会式の様子